

AIMATADAM

あい また
相俣ダム



国土交通省 関東地方整備局

利根川ダム統合管理事務所 相俣ダム管理支所

〒379-1404 群馬県利根郡みなかみ町相俣1493 TEL 0278-66-0034(代)

利根川ダム統合管理事務所HP

<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/>

利根川ダム統合管理事務所のホームページでは、ダム諸量や河川の水位、雨量、積雪量などのデータや各ダムのライブ映像をリアルタイムで提供しています。



@mlit_aimata_D



相俣ダムの概要

相俣ダムは、みなかみ町相俣の赤谷川に位置する重力式コンクリートダムで、利根川上流ダム群の一つとして、洪水調節を主目的に昭和28年から群馬県により建設が開始され、その後国に移管されて昭和34年6月に完成しました。

ダム湖のほとりには、猿ヶ京温泉があり遊歩道も整備され、湖ではカヌーなどによる自然体験もできます。



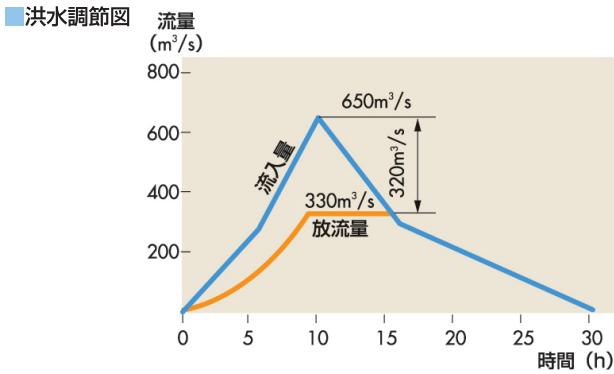
流域面積	110.8km ²
貯水池面積	0.98km ²
有効貯水容量	2,000万m ³ (25mプール 6万4千個分)

相俣ダムの役割

防災操作

7月から9月までの間は、ダム湖の水位を下げておき、台風など大雨が降ったときにはダム湖に水を貯めながら放流して下流の水量を減らし、ダムから下流の洪水被害を防ぎます。

※洪水調節容量940万m³を利用し、ダム地点の計画高水流量650m³/sのうち、320m³/sの調節を行います。



流水の正常な機能の維持

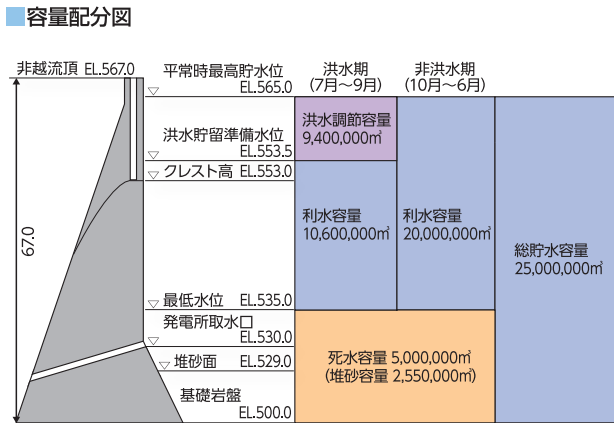
春先の雪解けなど川の水が豊富なときにダムに水を貯めておき、少雨によって川の水が減ったときはダム湖の水を放流して、水道用水や農業用水を安定して取水できるようにします。

※7月から9月の洪水期は利水容量1,060万m³、10月から6月の非洪水期は利水容量2,000万m³を利用して利根川沿川の用水補給及び河川環境保全等のための流量を確保します。

発電

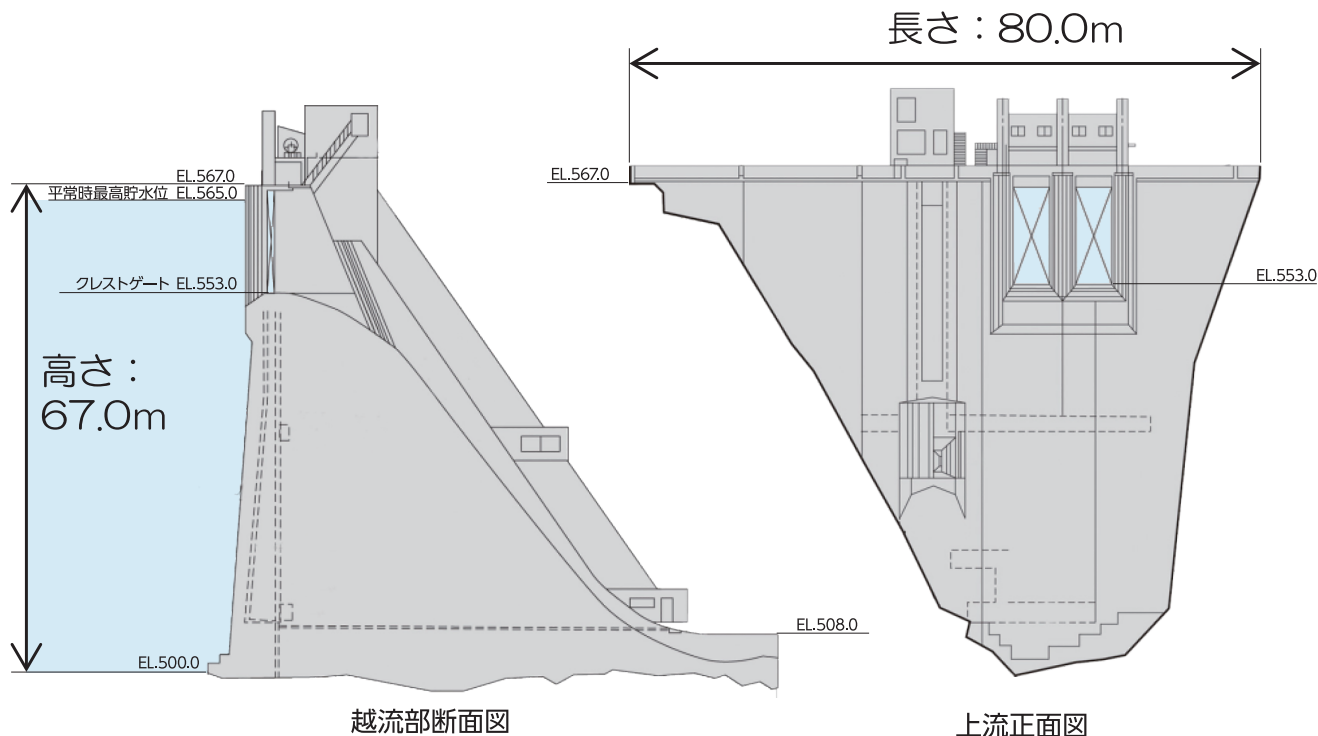
下流で農業用水などが必要なときに下流へ放流するダムの水を利用して水力発電を行います。

※ダム直下の相俣発電所では最大10m³/sを使用して最大出力7,700kWを発電します。また、ダム水環境改善事業により整備された相俣第二発電所では0.298m³/sを使用して最大出力120kWを発電します。



相俣ダムの大ささ

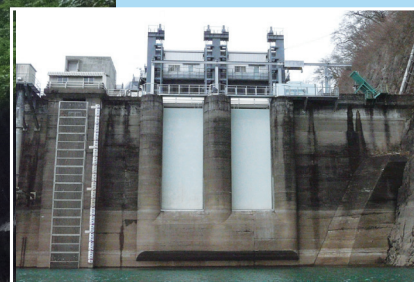
ダムの形式	重力式コンクリートダム
ダム体積	63,000 m ³
ダム高さ	67.0 m
ダム長さ	80.0 m



放流にあたって



クレストゲート2門
(主放流設備)



放流する時には…

ダムから水を流すときは、スピーカー（放流警報所）や警報車を使って川の近くにいる人たちに「これから川の水の量が増えるから危ない！」ということを知らせます。ダムから放流する際は、下流の急激な水位上昇を抑えるため、少しずつ放流量を増やしていきます。

また、放流警報表示装置で放流していることを知らせます。



放流警報所



放流警報表示装置

ダムの管理

相俣ダムでは、ダムの堤体やゲートなどの放流設備及び雨量、水位、警報設備などの保守・点検、整備を実施するとともに、洪水時にはゲートの操作を適切に行うなど、ダムの目的が十分達成できるよう日々管理しています。



操作室

ダムの操作

管理支所の操作室で、雨量や水位などの情報を集約し、これらの観測データを基に、ダムの操作を行っています。

各施設の点検

放流設備や観測設備などを毎日点検し異常が無いかを確認しています。



ダム堤体の点検
(外観点検)



ゲートの点検
(クレストゲート)



観測設備の点検
(堤体観測機器)



貯水池の点検
(湖面巡視)

相俣ダムの特徴

相俣ダムは一番スリムなダム。ダムの天端の長さは80mと、全国の国管理と水資源機構管理のダムの中で一番短いダムです。

下流河川の環境改善

ダム下流の相俣第二発電所を通じて一定量の水を流すことにより、赤谷川の水環境が改善されました。

ダム湖百選

四季を通じてダム湖の景観がすばらしく、「ダム湖百選」に選ばれています。



展望台からの景観

ダム周辺の整備

ダム周辺は、遊歩道や展望台、公園等が整備され、多くの人が訪れています。

ダム湖は、カヌーやEボートなどに利用されています。

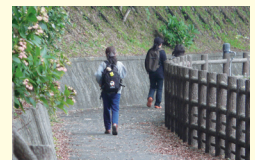
管理支所には、相俣ダム資料室を常設しており、ダム建設当時の資料や流木アートなどを展示しています。



カッパ地蔵 (赤谷川広場)



SUP (ダム湖)



遊歩道